

# 「読書のエグゼルシス」の多面的展開： Exercices Spirituels における 「不偏の読み」とは何か

林 洋輔<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 大阪教育大学教育学部保健体育講座  
e-mail: qqfs3s79@bridge.ocn.ne.jp

## 【序論】

### ◎研究の背景

★フランスの哲学者ピエール・アド（Pierre Hadot, 1922-2010）を中心に提唱された「生き方としての哲学」の実質「精神の修練Exercices Spirituels」について、平成30年度大阪教育大学若手教員等研究助成経費『「読書のエグゼルシス」序論：ルネ・デカルトにおける「知性・想像力・感覚・意志」を引き受けて』が成功裡に終了し、その応用的な継続に本研究は従事。

1. Hadot (1995etc.)にて確認できるように Exercices Spirituelsには「読書」が主要な研究対象として位置づけられ、「読むことを学ぶ」ことで主体における「生き方の形成」に連なる契機が指摘されている。

### ◎研究の意義:

1. Hadot (1995, 2004etc.) が断片的に言及してきた「修練としての読書」の実質に回答することは、読書を通じた人間形成の機序や過程に議論を投じる
2. アドは読書の対象として「古典」を主に想定しており、「なぜ古典は生き方を形成するのか」の問いに対する突破口を提示できる可能性がある
3. 時代や空間を異にする「古典」を読むことでなぜ主体は「成長する」と言えるのかについての問題提起

### ◎研究の着眼:

アドにおける読書への言及を包括的に参照し、Hadot (2010etc.)におけるエクササイズ (Exercices Spirituels) の観点からそれらの言及がどのように再解釈されるかを検討し、その成果に基づく「古典読書と哲学」について議論を築く (Cf., アド, 2019, 2020etc.)。

### ◎問題の設定:

1. Exercices Spirituelsにおける「修練としての読書」とは何か？
2. HadotにおけるExercices Spirituelsに見られる「不偏の読み」とは何か？
3. 「不偏の読み」はどのような示唆を与えるか？

## 【1. Exercices Spirituelsにおける修練としての読書とは何か？】

アドが言及したソローにも見られるように、「テキストに語る」（Hadot, 1995）読みであり、読者の意味付与を排する限りでの「真理」を目指す読み方を指す。

## 【結論と今後の課題】

「修練としての読書」の実質からアドの提唱する厳格な客観性あるテキスト読解の方法（「不偏の読み」）、さらに「高所からの眺め」への接続と「古典を読むことへの問題性」へ議論を進めることができた。

1. アドにおける「修練としての読書」とは「テキストに語る」ことにより読者の主観を可能な限り排し、テキストを正確に読み抜く態度といえる
2. テキスト読解においては著作の書かれた際の歴史的・社会的状況さらに著作の形式に関わる種別をふまえた客観読解「不偏の読み」が読者に求められる
3. 厳格な客観性が求められる「不偏の読み」は読者において、これまでの自己の価値観の相対化を促すことにおいて、後期ストア派にみられる「高所からの眺め」に論理づけられる
4. アドが言及したソローも含め、「修練としての読書」の対象に「古典」が専ら採用されていることから、「古典を読む」として生き方との関係に問題性が拓かれた

## 【2. 「不偏の読み」とは何か？】

Exercices Spirituelsにおける読書とはテキストの記された社会的・歴史的（文化的）状況や著作の諸形式（論文・著作・備忘録・書簡etc.）ないし構造に留意して著者の意味を正確に読み取る「不偏不当」「公平無私」の読みが「不偏の読み」と同定される。

アドにおける読書論では「（読者個人の）特殊から普遍へ」あるいは「主観から客観へ」との読解思考の順路が一貫しており、テキストの書かれた歴史的・社会的状況や文学に言われる「ジャンルgenre」を踏まえた「客観的な読み」に徹することが求められる

## 【3. 「高所からの眺め」に向かって】

Exercices Spirituelsとしての読書において、「自己の主観を相対化することによる「不偏の読み」とは、古代哲学の後期ストア派に主として見られる「高所からの眺め」に接続可能な論理を有するものであった

「修練としての読書」はいわば厳格な客観性を読解に要求するものであるが、それによって読者に「自己の変容」をもたらす、後期ストア派にみられる想像力の飛翔「高所からの眺め」へと論理づけられる。同時に「古典を読む」ことの問題性へと議論の道筋を拓く。

## 【謝辞】

本研究は令和元年度大阪教育大学「若手教員等研究助成経費（一般研究助成）」の支援を受けて行われました。記して厚く御礼申し上げます。